

年頭の辞

新年のご挨拶



一般社団法人 軽金属学会
会長 伊藤 吾朗

会員の皆様、新年明けましておめでとうございます。

さて昨年は、北朝鮮の核・ミサイル問題、衆議院解散・総選挙で右往左往しました。技術・工学の分野では、AI, IoT, ビッグデータといった情報工学に関するキーワードが頻出した年でもありました。製造業では景気に明るい兆しが見え始めてきた状況の中、日本を代表するものづくり企業で検査不正が明るみに出て、会員の皆様も少なからず心を痛めたことと思います。その原因として上げられたのが、検査軽視の体質、コスト低減のプレッシャーなどとともに、人材不足でした。

広くとらえれば、学会が目的とする軽金属に関する学術・技術の進歩発展を図り、工業の発展に尽くすことと、正しい検査を行い信頼ある製品を社会に供給することは、深く関わっています。また、軽金属学会は教育機関ではありませんが、学会Webサイトの「軽金属学会とは」のページには「また最近では日本アルミニウム協会等の関連団体と連携して、軽金属の特徴を活かした各種の研究開発と人材育成を通して、リサイクルや省エネルギー関連分野で指導的役割を果たしており、地球環境の維持・改善に積極的に貢献しています。」の一文が添えられています。若年人口の減少の中で、軽金属学会の持続可能な活動運営を考えれば、人材育成は最重要課題と言えましょう。軽金属学会では、すでに2014年から総務委員会の下に人材育成WGを立ち上げ、活動を継続しています（本誌65巻10号）。

さて会長に就任してすでに7か月余りが過ぎましたが、就任の挨拶（本誌67巻6号）で、上記人材育成に関連して、男女共同参画の問題を取り上げました。スイス・ジュネーブの研究機関「世界経済フォーラム」が昨年11月2日に発表した2017年版の男女平等度（ジェンダー・ギャップ）世界ランキングで、日本は昨年より3つ順位を下げ、144か国中114位にまで落ち込みました。このランキングには、専門職や管理職、国会議員や閣僚といった要職にどれだけ女性が就いているかが、大きく反映されると聞いています。日本の場合、政治においては女性議員、女性閣僚、企業においては女性の管理職や役員、大学においては女性教授、女性執行部が少ないことが響いているのでしょう。したがってこのランキングを上げるには、その下の候補者層の女性比率が高くないといけません。一学会としてできることも限られていますが、できるところから始めようということで、総合計画委員会の下に男女共同参画委員会設置準備WGを昨年立ち上げました。皆様のご理解・ご協力をお願い致します。男女共同参画の問題は、これまでも進めてきた若手会員の増強、ユーザー企業会員の理事会・委員会への参画と相まって、ダイバーシティ促進につながると考えています。お隣中国でも、今後の成長の鍵はイノベーションにあると打ち出している時代、同じ考えの人々だけが集まったのではイノベーションは容易に生まれません。自由な空気の中で広い層の人々がものを言える風土にこそ、学会が目的とする学術・技術の発展があります。学会の運営についても同様に、広い層の会員のご意見を我々執行部が拝聴し、消化・吸収して策を打ち出すことにより発展があると信じています。春秋の講演大会、シンポジウム・セミナー、など折々でアンケートを実施していますので、会員の皆様の忌憚のないご意見を是非お聞かせ下さい。

その他の活動についてご紹介致します。今年秋からの大会2.5日制に向けての準備を進めています。概要集の電子化も検討課題として上がっています。またこれまで軽金属学会賞と小山田記念賞の受賞者だけが受賞講演を行っていたところを、功績賞、躍進賞、奨励賞、女性未来賞など他の賞についても受賞講演を行うよう検討を進めており、今後ますます大会が充実すると期待されます。昨年秋期大会から論文賞、論文新人賞に対して、公益財団法人軽金属奨学会から副賞としてそれぞれ賞金20万円、10万円が授与されることになりました。軽金属奨学会には厚く御礼申し上げます。投稿論文数の減少は国内の学会の共通の悩みで、軽金属学会でも種々の対策を講じてきていましたが、今回の奨学会からの副賞を機に、論文投稿数が増加すると期待しています。また軽金属の対象範囲として、ポラス化等の手法により軽量であれば、Al, Ti, Mg基以外の金属材料も対象に加えて、従来より門戸を広げました。これも投稿数増加に寄与すると思います。会員の皆様には、多数の投稿をお願い致します。

スマートフォン対応も含めた学会ホームページの改訂を進めており、皆様に親しみやすい姿で今まで以上に活発に情報発信することを目指しています。これまで支部主催でしか行われてこなかった見学会でしたが、本部（企画委員会）主催の見学会も行う方向で検討しています。国際交流関係では、2022年開催予定のアルミニウム合金国際会議（ICAA 18）を誘致すべく、今年カナダで開かれるICAA 16でプレゼンテーションを予定しています。

以上のほかにも、各委員会委員長、担当理事のご尽力で学会がより一層発展するよう努めております。繰り返しになりますが、会員皆様の忌憚のないご意見をお寄せいただき、より一層の学会の発展に、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

末筆になりましたが、皆様のご多幸ご健勝と益々の発展を祈念して、年頭の辞とさせていただきます。